

6 「並べ換え」の手法を生かして、文章構成を論理的に考えさせましょう

「文章の構成や展開」をとらえる力を身に付けるには、どのような学習が効果的でしょうか。「考えるイルカ」（東京書籍2年）では、次のような学習目標と学習課題が教科書会社のホームページに例示されています。

「考えるイルカ」（東京書籍2年）の学習目標と学習課題例

- * 学習目標 論理の展開の仕方をとらえて吟味しよう。
- * 学習課題 a 筆者の論証の仕方を確かめながら読もう。
 - ・ 実験や訓練の手順とそれぞれの結果について、見出しをつけたり、要約したりしてみよう。
 - ・ 筆者が行った実験を図やフローチャートの形に整理して、論証の仕方をとらえよう。
- * 学習課題 b 筆者の考察や考え方について、論理の展開を吟味しよう。
 - ・ 実験結果について、筆者はどんな根拠に基づいてどう判断しているか整理してみよう。
 - ・ イルカの賢さについて、筆者はどのように考えているか、根拠を整理して話し合ってみよう。

この学習課題のうちの___線部は、従来から多くみられる、いわば「定番」ともいえる学習課題です。また、~~~~線部は、手法としては新しいものです。

このような方法の中から、生徒の実態に合うものを選択するわけですが、上記の方法はすべて「書くこと」を伴うために、時間と手間がかかることに加え、単調な学習になりがちです。

文や段落をばらばらにする

そこで、「書くこと」は後回しにして、まず具体的な作業から入る手法を紹介しましょう。それは、文や段落をばらばらにしただけで、正しい順序に並べ換えるというものです。「筆者の論証の仕方を確かめながら読もう」というねらいにぴったり合う手法です。

説明例

ちょっと楽しい勉強をしましょう。第 段落にある「条件性弁別」という訓練方法を説明している段落は第 段落と第 段落です。そのうち、第 段落について考えます。第 段落は六つの文からできています。その六つをばらばらにしてカードに一文ずつ書いたものをこれから配ります。これを正しい順に並べ換えましょう。それができたら、筆者のいう「条件性弁別」が理解できたことにもなります。ヒントとして、第 段落（一文）を書いておきます。

（板書） 実験の前の準備として、シロイルカに次のような訓練を行った。

この続きを考えてもらおうわけです。このような学習は、初めてなので、まず一回先生が音読してからカードを配ります。では聞いてください。

配布カード例（第 段落の文をばらばらにしたもの）

- ア このときシロイルカがRのほうにタッチすれば正解としてえさをやる。
イ まず、シロイルカにフィンを見せる。
ウ そして、このときは の板に触れたら正解としてえさをやる。
エ そして、それを隠して、すぐにアルファベットのRの描かれた板を見せる。
オ 次に、今度はマスクを見せ、やはり同じように二枚の板を見せる。
カ これらを繰り返し行っていくと、やがてイルカはフィンを見せたときはRを、マスクを見せたときは を選ぶようになる。

このような「並べ換え」をするときは、接続語や指示語の指示内容などをもとに文のつながりを考えさせ、どうしてそう考えたのかを論理的に説明させることが大切です。

上の例は、「文の並べ換え」をするものですが、指導の必要に応じて、意味段落内での「段落の並べ換え」や、文章全体での「段落の並べ換え」などを行うことも効果的です。

意味段落内や任意の段落のまとまりでの「段落の並べ換え」に適すると思われる教材例

「ユニバーサルな心を目指して」（三省堂1年）

対象範囲…第 段落～第 段落

着眼点…「つまり」「例えば」「さらに」「このように」といった接続の言葉に着目させる。

「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」の定義と筆者の説明に着目させる。

「ごはん」（東京書籍3年）

対象範囲…第 段落～第 段落

着眼点…「その」「それ」「この」といった、段落のはじめにある接続の言葉に着目させる。

時間の経過に即して人物がどんな行動をとっているかを考えさせる。

文章全体での「段落の並べ換え」に適すると思われる教材例

「ハチドリ不思議」（東京書籍1年）

学習目標…文章の構成や因果関係を読み取る。

着眼点…段落の最後の一文に着目させ、それにつながる言葉を推論させる。

「体温」「冬眠」などのキーワードに着目させる。

「生き物として生きる」（光村図書3年）

学習目標…根拠や理由に着目しながら、論理の展開をとらえる。

着眼点…筆者が根拠として示している例やその説明に着目させる。